

令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 (**社会**) 教科担任名

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
社会的事象への 関心・意欲・態度	1年	○話し合い活動等の、学び合うことについて非常に意欲があり、活発に活動できていた。 ▲疑問に思ったことや興味もったことについて、調べ学習を行う生徒が少なかった。	ノートに調べ学習を行う部分を設けて促す。				
	2年	○授業で学習した内容に関しては、よく聞き取り、覚えることができる。 ▲日常的なニュースへの関心が一部の生徒にしか見られない。 ▲授業で学習した内容をさらに深めようという態度が、一部少数の生徒にしかみられない。	・授業中に、可能な限り時事問題に触れる。 ・毎時間の授業のまとめで、優れたものがあれば紹介していく。(授業で学習した内容に関して、疑問に思った点などを調べ、まとめることができるノート)				
	3年	○自己管理能力その1(書く力)、その5(主体的に学ぶ力)が付いている。 ▲板書ノートを提出できない生徒が約5%いる。プリントNo.の整理が近日中にできない。	○予習プリントを家庭学習で続ける。「自分の考えや、新たにわかったこと」をメモ書くノートの授業の財産になることを讃え、自己肯定させる。 ▲プリントNo.によらない「日本国憲法の長文」を書き終えることで、自己肯定させる。				
社会的な 思考・判断・表現	1年	○自分の考えをもち、それを発表したり発言したりする生徒が多かった。 ▲理論的な説明が苦手な生徒が多く、語句や文法の誤りが多く見られた。	授業のまとめとして、書いて説明する学習の機会を増やす。				
	2年	○選択問題の正答率が高い。 ▲学習した内容を、因果関係を明確にして説明したり、伝えたりすることが苦手である。	・毎時間授業のまとめを書くこととし、優れたものがあれば全体に紹介、共有して、書き方の幅を広げていく。 ・話し合い活動を通して、相手に伝わるように説明する練習をしていく。				
	3年	○映像を視聴し、授業内容をビジュアルに視聴し、自分の考えを文章表現できる。 ▲映像を視聴し、新たにわかったことを文章表現できるが、自分の考えを書けない生徒が約20%いる。	○書きすぎて映像から目が離れるマイナス面を克服するため、「メモ書き」と「考えまとめ書き」の使い分けを指導する。 ▲映像の登場人物を絞ることで、自分の考えをまとめるように指導する。				
資料活用の技能	1年	○図や写真から情報を読み取る学習活動に積極的に取り組めた。 ▲主題図の読み取りができていない生徒が多かった。	各小単元ごとに主題図に触れる機会を増やす。				
	2年	○提示された特定の資料から適切に情報を読み取ることができる。 ▲計算を伴う問題で正答率が低い。 ▲様々な資料の中から、情報を適切に選択することが苦手である。	・知りたい情報のためにはどの資料を活用するべきか、教科書や地図帳の資料を使って練習する。 ・授業内での説明に加え、宿題や小テストで問題を解く機会を増やし、計算問題への抵抗感を減らしていく。				
	3年	○47都道府県、200国のうち50国を地図掌握している生徒が大半になった。 ▲統計やグラフの分析の問題で達成率50%程度の生徒が少なくない。	○毎授業15分の練習問題トレーニングを続け、200国中100国を地図掌握できる生徒を増やし、自己肯定させる。 ▲毎授業15分の練習問題トレーニングを続け、統計グラフ問題の達成率を66%平均まで高める。				

令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 (**社会**) 教科担任名

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期		
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
社会的事象についての知識・理解	1年	○基礎的な知識の定着ができていない生徒が多かった。 ▲知識を活用し、説明の中で使いこなせる生徒が少なかった。	語句を覚えさせるだけでなく、意味を説明したり、活用する場面をつくる。				
	2年	○一問一答形式で用語を答えることができる。 ▲用語の理解が浅く、意味を答えることが苦手である。	・写真資料、動画を用いて、視覚的にも印象に残るように用語の説明を行う。 ・授業に復習を取り入れ、頻繁に学習内容を思い出す機会をつくる。 ・知識の定着のために用語の小テストを行う。				
	3年	○復習確認テスト2年2月から3年7月にかけて平均点が9点上昇した。毎授業で15分練習問題の効果が出ている。 ▲「かんたんに述べよ」を書けない生徒が約20%いる。	○毎授業で15分練習問題を継続し、知識理解度を自己肯定させる。 ▲作文しやすいテーマを毎授業で工夫し、取り組ませる。				
授業改善の検証方法	・ノート点検 ・定期考査 ・チャレンジカード(授業のまとめ)						
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題		
自分を知る力	1年	社会的事象に対する当事者意識を育てるために、社会問題や国際的な問題に対し、「自分ならどう考えるか」「自分ならどう行動するか」を考える機会をつくる。	○乾燥した地域での灌漑事業の映像や温暖化による影響についての映像を見て、どのように問題が解消されていくのかを学び、自分ができることをやりたいと考える生徒が多かった。 ▲意識は高まったが、自分ができることが具体的に何かを見つけるまでは至らなかった。	・引き続き、時事的な内容を含む映像等に触れる機会をつくる。 ・「自分ならどう行動するか」を具体的に示すことができるように、調べ学習を促していく。			
	2年	・学習内容に関連して、わからないことや疑問を調べるように声掛けをする。 ・意欲的に調べた内容は評価の対象とする。(ノート点検時に確認) ・授業のまとめの時間を使い、エネルギー問題などの学習内容に対する解決策や取り組みを考える。	【成果】 ・授業の内容を文章で表現することのできる生徒がどの程度いるか把握できた。 ・実際に調べるところまでは辿り着かなかったが、一部の生徒は疑問や知りたいことをノートに書きだすことができた。 【課題】 ・学習内容に関連することを意欲的に調べられた生徒はほとんどいない。				
	3年	自己管理・自己理解能力(自己肯定感)を高めるために、予習課題、授業中課題、復習課題のトレーニングを習慣化し、諸テストで成長度を確認する。	○これまで毎授業で行っていたプリント課題を、休校中の予習課題にまわすことで、代わりに毎授業で問題演習ができるようになった。 ▲予習課題に主体的に取り組む生徒100%を目指し、取り組みやすい内容を工夫する。	○「書く力」増強を自己肯定させ、日本国憲法を前文書くことを、公民学習の予習課題とする。 ▲漢字を正確に書かせる。			